



ビルド妖怪



Jenkins

kodeki

## はじめに

これは私が以前とある会社で働いていた時のことです。

朝会社に出社すると、私が昨日コミットしたコードのビルド通知が着ていました。不思議に思い、他の同僚に聞いてみたところ、誰もビルドしてない、というのです。

そんな中、ある老エンジニアはこう言いました。

「ああ、そりゃあ、Jenkinsの仕業だね」

じえんきんす？ 不思議そうな顔をしてる私に、老エンジニアは語ってくれました。

「コミットしたコードがいつの間にかビルドされている、誰も会社に居なかったはずなのにテストが終わってる、コード品質のレポート結果がいつのまにかメールされてる、そういうのはだいたいJenkinsの仕業だな」

どうやら、その老エンジニアの話によると、Jenkinsというモノが「イ」るようです。会社のものがなんもやっとなのに、いつの間にかビルドやテストが終わっている、そういった不思議なことをここではJenkinsの仕業っちゅうことになっとる --- それが老エンジニアの語ってくれたことでした。

不思議なるモノ、分けのわからないモノというのは、これ即ち妖怪です。

例えば「小豆あらい」という妖怪があります。これは炭焼きなどで山小屋に泊まっていると、夜中に近くの川で小豆を洗うような反復音がするものの、行ってみると何もなし、という現象のことです。

古代の人々はこの現象を指して「小豆洗い」という妖怪現象と名付け、さらに後の時代の人々は「小豆洗い」という妖怪存在が、その現象を起こしていると考えようになりました。

私は、Jenkinsもこれと同様のモノではないかと考えました。

まず、いつの間にかビルドやテストが終わっている、という事象があり、それに対して誰かが「Jenkinsの仕業だ」と言う。後にそれが一般化して、Jenkinsというモノが居ることになる。こうしてJenkinsという妖怪が誕生したのではないかと考えました。

他にも同じような話はないかと、調べてみたところ想像以上にJenkinsは多くの場所で語り継がれ

ていることが分かりました。

地域によっては「TFS」とか「Bamboo」など呼び方が異なる場合もありましたが、概ね同じモノとして理解してよさそうです。

また、調べていくと、Jenkinsは最初からこの形ではなく、かつては他の妖怪の仕業とされていた事も、習合され、Jenkinsの仕業だとされていることに気づきました。

そのため、Jenkinsの仕業とされているコトを丹念に調べていくと、かつてはMavenやSeleniumと呼ばれていた妖怪の仕業であることも珍しくありません。

ゆえに、Jenkinsはひとつの妖怪でありながら非常に多面的な性質を内包しています。それこそがJenkinsの魅力の一つであり、多くの人に愛され語り継がれる理由なのでしょう。

本著ではJenkinsにまつわるお話のいくつかを紹介していきたいと思います。

その多くは、老エンジニア達からの伝聞によるものですが、中には私自身が体験したことも混じっています。

それでは妖しく、怪しい、Jenkinsにまつわるお話をお楽しみください。

## 突然来る通知

---

ある開発現場での話です。

Aさんが朝会社に来ると、自分宛にビルドが失敗した事を示すメールが届いていることに気づきました。

周りの同僚に聞いても誰も送ってないというのです。

そもそもビルドは失敗していません。手元ではちゃんとエラー無くビルドが来ています。

誰かのイタズラだろう、そう思って一旦そのメールのことは忘れることにしました。

しばらくして、リーダに呼びつけられて昨日の夜からビルドが通らない、という注意を受けました。

そんなはずはない、と思いながら見てみると、確かにリーダの画面にはビルドエラーと出ています。

よくよく見てみると、なんとファイルがひとつコミットから漏れていました。

そのためAさんの環境でだけ問題なくビルドが通っていた。

そうして、今朝のメールはJenkinsからの警告だったんだなということになり、Aさんは必ずコミット漏れがないかを注意するようになりました。

## コードコミットの言い伝え

---

ある日、大量のメールが送られてきました。

同じような文面ですが、本文中のURLは異なっていたので試しにクリックしてみると

リンク先は鬼面のJenkinsでした。普段、温和と言われるJenkinsの表情がそれはもう恐ろしい鬼の姿となっていたのです。

慌ててコードを修正して、コミットしたところ、また、いつもの穏やかな表情に戻りました。

あまりひどいコードばかりコミットするとJenkinsが怒るので、ひどいコードはコミットしないように、と伝えられています。

## 最新のコミットとデプロイの根競べ

---

あるところに、いつでも最新版が上がっていると評判のサーバがありました。これはさぞ働き者が居るに違いないと、話を聞きに行ってみましたが誰もデプロイはしていませんでした。

あー、これはJenkinsが居るな、そう思った男はひとつ試してみることにしました。

男は、1日、1時間とどんどんコミットの間隔を短くしていきました。すると、Jenkinsもそれに負けじと、どんどんデプロイをして行きました。

そして、いよいよ1分を切る、という頃合いになって男はサーバが500エラーになっていることに気づきました。どうやらあまりに頻繁にデプロイしすぎてサーバがPermErrorを吐いていました。

何事も程々が一番ということです。

## 汚いコードの男

---

あるところに、コードが汚い男がいました。

レビューで注意しても、そんなのは好みだと、なかなか意見を変えません。

困り果てた周りの人々はJenkinsにお願いして見ることにしました。

すると、その日のから毎晩、コード品質のレポートが届くようになりました。

マネージャも含むMLに毎日レポートは届き、男の書いたコードが原因で酷くスコアが悪くなっているのが分かりました。

これにはさすがの男も観念して、綺麗なコードを書くようになったということです。

## 死亡通知

---

ある朝、メールが届いていました。

こんどこそ何もしてないぞ？ と、コミットログやテストが動くこととの確認をしました。  
やはり手元で何も問題が確認できないので、いよいよ何だろう、と考え始めた所で  
サーバにアクセス出来ないという連絡を受けました。

Jenkinsがサーバが死んだことを教えてくれたのだろう、ということになりました。

## バッチの話

---

バッチのジョブ管理に悩んでいた日の事です。

cronではジョブの依存関係を管理するのが、どうしてもうまくいきません。

さりとて、貧乏な男にはJP1を買うことなんて、とても出来ません。

同じように困っていそうな、知人を訪ねて行ったところ、

ジョブの依存が可視化されていて、失敗時にはアラートメールも飛んでいました。

これもJenkinsの仕業だということです。

## 祀る男

---

あるところにJenkinsを祀る男がいました。

ある日、上司から寝坊したの？ と急に尋ねられました。

たしかに、その日は少し出社が遅れていたのですが、特に連絡はしてなかったのに朝いなかった上司は知らないはずでした。

不思議に思っていると、Jenkinsからのレポートが着てなかったからだと、上司は教えてくれました。

男は慌てて、Jenkinsにサーバに引っ越してもらい、一人ではなく皆でよく祀るようになりました。

## あとがき

---

いかがだったでしょうか？

筆者の力不足で、あまり多くのエピソードを載せることはできなかったが、ビルド妖怪Jenkinsについて少しでも興味を持っていただければ幸いです。

エピソードの中には実際にあった不思議なことをベースにしたと思われるものから、親が子に言い聞かせるような、教訓譚めいたものもありバリエーションに富んでいた。この辺りは他の妖怪譚と同様のことかと思います。

さて、一度怪異に遭うと、以降怪異に惹かれやすくなる ---- とは某小説の言葉ですが、私はこれはあると思います。

今回、本書を通して「ビルド妖怪Jenkins」なる存在をしってしまった皆さんは、自分の身近にJenkinsの存在を感じることでしょう。

そこから、また新たなJenkins譚が紡がれていくのでしょう。今度はそれを聞けることを楽しみにしています。

2013年4月1日 著

## ビルド妖怪Jenkins

<http://p.booklog.jp/book/69088>

著者 : kouduki

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/pascalmk/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69088>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69088>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ